

## 令和3年度 第28回 高校対抗英語ディベート大会

1. 日 時： 2022年（令和4年）2月3日（木） 11:00～16:30

2. 参加校： 兵庫県立尼崎小田高等学校 国際探求学科2年生（36名）  
 兵庫県立姫路飾西高等学校 普通科国際文化系コース2年生  
 兵庫県立加古川西高等学校 普通科国際市民類型2年生

3. 場 所： 本校 LL 教室、301 教室 ※オンライン形式

4. 日 程：

11:00	ジャッジミーティング（審判のみ：進行 竹谷）
11:35	開会式 メインルーム（代表生徒挨拶なし：進行 奥藤）
11:45	第1試合開始
12:35	終了 終了後昼食休憩
13:20	第2試合開始
14:10	終了 次のチームに引き継ぐ
14:20	第3試合開始
15:10	終了 次のチームに引き継ぐ
15:20	第4試合開始
16:10	終了
16:15	閉会式、メインルーム
16:30	解散

5. 討議論題：The Japanese Government should relocate the capital function out of Tokyo.

「日本政府は、首都機能を東京の外に移すべきだ。是か非か。」

6. 実施要領：

(1) 試合時間

順番	内容	時間
1	Affirmative Constructive Speech（肯定側立論）	4分
	Strategy Time（作戦タイム）	1分
2	Negative Cross Examination（否定側尋問）	3分
	Strategy Time（作戦タイム）	1分
3	Negative Constructive Speech（否定側立論）	4分
	Strategy Time（作戦タイム）	1分
4	Affirmative Cross Examination（肯定側尋問）	3分
	Strategy Time（作戦タイム）	2分
5	Negative Attack Speech（否定側アタック）	2.5分
6	Affirmative Attack Speech（肯定側アタック）	2.5分
	Strategy Time（作戦タイム）	2分
7	Affirmative Defense Speech（肯定側ディフェンス）	2分
8	Negative Defense Speech（否定側ディフェンス）	2分
	Preparation Time（準備タイム）	2分
9	Affirmative Summary Speech（肯定側まとめ）	2.5分
10	Negative Summary Speech（否定側まとめ）	2.5分
	Judgment（審査）	
合計		37分

## (2) 出場人数

- ①各高校より原則1クラスの全員が参加する。
- ②1クラスの全員が参加する場合、1チーム3～5名とし、8チーム（肯定側4、否定4）が出場する。
- ③帰国子女は各チーム1名のみの出場を認める。
- ④欠員が生じ、チームメンバーが2人になった場合、他チームから1人補充すること。

またそのディベーターは自チームでも試合をすることを可能とする。

## (3) 司会・審査・組み合わせ

- ①司会と計時は各校の教員（ALT・生徒も可）が担当する。
- ②審査は各校のALT（1試合1名）で担当する。
- ③勝敗は審査員の得点で決定する。
- ④合計得点はJTEと審判（ALT）の2人で確認を行い、スプレッドシートの該当セルに入力する。
- ⑤組み合わせおよびブレイクアウトルームのルームナンバーは別紙一覧表を参照。

## (4) 実施細則

- ① **Constructive Speech**（立論）は1名以上で実施。  
制限時間（4分）をこえても発言は継続できるが4分15秒で発言を制止する。
- ② **Cross-Examination**（尋問）は3人以上で実施すること。  
2人以下の場合は3点を減点する。制限時間を超えて発言できない。
- ③ **Attack Speeches**（反駁）は、3人以上で実施すること。  
2人以下の場合は3点を減点する。制限時間を超えて発言できない。
- ④ **Defense Speeches**（防御）
- ⑤ **Summary Speech**（まとめ）制限時間2.5分を超えて発言できない。
- ⑥ 審査基準については、別紙審査用紙の「審査基準」及び「その他の注意事項」に準ずる。

## (5) 運営

- ① **Zoom** ホスト 姫路飾西高校
- ② 司会 計時 教員（ALT・生徒も可）
- ③ 合計得点確認 教員1名と審判（ALT）
- ④ 得点入力 教員（スプレッドシート使用）

## 【大会結果】

国際探求Ⅱの授業で取り組んできた英語ディベート学習の成果として、全員参加の高校対抗英語ディベート大会（オンライン形式）に参加した。本校は肯定4チーム、否定4チームに分かれて全8試合を行った。各校ともよく準備されており、レベルの高い大会となった。



【参加生徒アンケートより抜粋（尼崎小田）】

- ・ディベートで仲間と共に協力することや立論の書き方やアタックの仕方やディフェンスの仕方などもしっかりと学んだ。自分たちの用意したアタックやディフェンスを使うことが出来た時の嬉しさなども学んだ。
- ・相手の意見をよく聞き、それに対して私たちが自分の思っていることを発言し、成長していく大切さに気づきました。相手からアタックされたことに対してすぐに日本語で考え英語に直し発言することが初めは全くできず全然ついていけなかったけど、ディベート練習を重ねていくうちにそれがどんどん速くなって、cross, attack, defense すべて発言できて自分でも成長したなと思いました。
- ・ディベートを通して得られたことは貴重で素敵だと思います。頑張ってよかったです。頑張る機会を与えてくださってありがとうございました。
- ・データを丁寧に調べたり、自分の意見を的確に述べるという習慣をつけることができたと思います。今回のディベートを通じて、人と協力して物事を成し遂げていくということが、いかに重要かを改めて実感することができたと思います。
- ・今まで自分の思っていることを言葉にして、簡潔に話すことが苦手だったのですが、今回のディベートで少し改善された気がします。これまで毎日居残りや話し合いをして、ディベートでもボコボコにされて辛いなんて思うこともあったけど、班のみんなで協力し合えたことはとても良かったと思うし、本番でも今までで1番のディベートができて、すごく良い経験になりました。これからも国探の活動をみんなで協力して頑張っていこうと思います。
- ・ディベートは全てが大変で難しかったです。特に、データ、エビデンスを選ぶことが大変でした。ディベートで、一段とみんなの仲が深まったのでこれからの活動もクラスみんなで頑張っていきたいです。
- ・成長した点は2つあります。1つ目は必要な資料を集める力です。2つ目は、責任感です。ディベートは4.5人で1つのグループで、1人で進めようと思っても限界があります。試合をする時に自分のせいで有利に進めない可能性もあります。なので、グループ内で分担した役割やすべきことをする責任感が身につきました。
- ・準備がとても重要でした。エビデンスの収集や、立論の組み立てにはかなり力を入れないと本番で潰されるのでどれだけ情報を持って、相手の出方を想定して試合をするかはとても重要だと感じました。準備をしっかりとしたので、自信を持って最後まで戦えたのがよかったです。